

令和 6 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立 春日 高等学校

Table with 3 columns: スクール・ミッション, スクール・ポリシー, and 評価. It details the school's mission, policies, and evaluation criteria.

学校運営計画(4月)

Table with 3 columns: 学校運営方針, 昨年度の成果と課題, and 評価. It outlines the school's operational strategy, past achievements, and evaluation results.

自己評価

Large table for self-evaluation with columns for 評価項目, 具体的目標, 具体的方策, 生徒・保護者対象のアンケート, 評価(3月), 結果の考察と次年度の課題, 項目ごとの評価, and 学校関係者評価. It covers various areas like teaching, student support, and safety.

| | | | | | | | | | | |
|--|--|---|---|--|---|---|--|---|---|--|
| 企画 研修部 | 企画課 | 学校全体が一丸となり、授業改善を図るサポートを行う。 | 教科横断・各課横断的視点から教育活動全体を見直し、授業改善を図る。 | 授業評価アンケート ○ICTの積極的な活用・ディベート等の教科横断的取り組みにより、知的好奇心を持ち授業に取り組むことができた。 ■約70% | A | A | A | 行事日の時制を含めた事前調整を入念に行い、突発変更を減らすことができた。次年度の課題として、年度当初の業務が集中する時期の業務分担が挙げられる。 | A | ・PTA活動で良い連携ができた。 ・保護者参加のPTA行事が多く、良い傾向だと思ふ。 ・指導と評価の一体化。行事後の反省を次年度に即反映させることが大事。 ・行事開催の偏りが無いよう、バランスよく実施することが大事。 |
| | | 同僚性の高い教員集団形成の支援を行う。 | 同僚性の高い教員集団形成の支援を行う。 | | B | | | | | |
| | | 教員のニーズを把握し、教員が働きやすい職場環境の整備を行う。 | 教員のニーズを把握し、教員が働きやすい職場環境の整備を行う。 | | A | | | | | |
| | 図書研修課 | 職員研修の充実および授業内容の充実と改善を図る。 | 相互授業参観を通して、授業の内容と展開を改良する。 | 生徒による授業評価アンケート(第1・2回目) ○授業が分かりやすい■約70% ※授業が楽しいと感じている生徒もいるので、手厚い個別指導を行う必要がある。 | A | A | A | PTAの方々のご協力のおかげで、年間を通じPTA行事・学校行事がこれまで以上に充実した1年間であった。次年度の課題として、教員間の業務の引き継ぎが挙げられる。 | A | ・活字離れの高校生が本を読んでいることがわかった。 ・読書は大事。とても本を読んでいることに感動した。中学校でもこのことを共有し、大切さを伝えていきたい。 ・活字離れと言われて久しい中、成果が着実にしている。読書で何が得られるか生徒に伝わると良いと思う。 |
| | | | 定例の職員研修以外に必要に応じて教員スキルアップに繋がる研修を適宜実施する。 | 定例の職員研修以外に必要に応じて教員スキルアップに繋がる研修を適宜実施する。 | | | | B | | |
| | | | 授業評価アンケートを活用して、生徒のニーズに応える授業展開を行う。 | 授業評価アンケートを活用して、生徒のニーズに応える授業展開を行う。 | | | | A | | |
| | | 生徒の読書量の増加を図る。 | 図書館オリエンテーションや多読賞を充実させる。 | 令和5年度と6年度(11月26日時点)の本の貸し出し冊数の増減 ■令和5年度→令和6年度 1年生 1339冊→1743冊 2年生 1684冊→ 657冊 3年生 969冊→ 369冊 ※1年生の貸し出し冊数が増加しており読書に関する取り組みの効果が表れている。 | A | B | B | 1・2年生の各教科の授業を、年に一回は図書館で実施して生徒が本を通して学べる機会を提供したい。各クラスの取り組みとして、生徒全員が一冊本を図書館で借りて読んだ後に、終礼等で毎日一人の生徒が本の内容や感想を述べる1分間スピーチを行う機会を提供したい。 | | |
| | 第1学年 | 自身の将来像に向けて計画的、継続的に努力できる生徒の育成 | 自己の意思を大切にしながら学習、部活動、学校行事において常に目的を明確にして実行させ振り返りを行う。 | 進路希望調査、スタディーサポート、KPI成果物 ○OFC・eopライマー参加者■12名 ※外部機関と連携し成果をあげている生徒が複数いる。 ○進路大特別講座の希望者■約40名 ※大学進学についての意識の高揚が表れている。 | A | A | A | ガイダンス部と連携を図り、学年集会などの時間を使って外部機関の活動についての紹介や進路大進学についての話しをしたことで活用する生徒が増えたと考えられる。次年度は、その内容や成果の質の向上を図りたい。 | A | ・春日生らしさを意識できる様、今後ともよろしく願いたい。 ・まずは高校生活に慣れることが大切。小中のポートフォリオは高校でデジタルとして引継がれていくと分かった。 ・生徒が疎外感、孤独感を抱かないように確実なフォローができるよう、今まで以上にコミュニケーションを活性化させるとともに、教職員間の連携に力を入れて取り組んでいただきたい。 ・出席率98%は素晴らしい。ポートフォリオの振り返りもとても良い。 |
| | | | 総合的な探究の時間を通して、3年間の探究活動を意識させ、進路実現に向けての成果を充実させる。 | 総合的な探究の時間を通して、3年間の探究活動を意識させ、進路実現に向けての成果を充実させる。 | | | | A | | |
| | | | ICT機器の効果的な活用や、教科内の連携強化などにより積極的に授業の改善を図る。 | ICT機器の効果的な活用や、教科内の連携強化などにより積極的に授業の改善を図る。 | | | | B | | |
| 「春日五常」などの自他の想いを大切にできる精神の確立 | | 挨拶、五分前行動、清掃等を徹底させ、お互いが気持ちよく過ごせる空間を作ることで思いやりの心や公共心を育む。 | ポートフォリオによる振り返り ○各行事の振り返りの為7回実施 ■ほとんどの生徒が「成果が上がった」と回答。今後に向けての課題についても分所が表れている。 学校生活アンケート及び保護者向け学校生活アンケート ○学校生活について ■一部の生徒が勉強面・人間関係について悩んでいることが分かり、勉強面では補講、人間関係については個人面談等をおして改善に繋がった。 ※出席率98%、皆勤率37%(2学期終了時) | A | B | B | ポートフォリオ以外にも定期考査に向けての学習計画や長期休業中の活動実績など「見える化」することにより、目的を明確にし、その振り返りの習慣を身に付けることができた。次年度は形骸化することなく、PDCAサイクルを回していきたい。 | | | |
| | | 集団の中での自己の役割を意識させ、お互いに尊重し合う態度を涵養する。 | 集団の中での自己の役割を意識させ、お互いに尊重し合う態度を涵養する。 | | B | | | | | |
| | | 出席率98%、皆勤率50%以上を目指し、己に打ち克つ精神を育む。 | 出席率98%、皆勤率50%以上を目指し、己に打ち克つ精神を育む。 | | B | | | | | |
| 第2学年 | | 「春日五常」の精神を体現し、たくましく生き抜く力を持つ生徒の育成 | 時間や規律を守り、自律した行動ができる生徒を育成し、修学旅行等の行事で成果を発揮させる。 | 学校生活アンケート ○先生方の日々の面談などで、相談しやすい雰囲気を作っていることから、事態が拡大する前に、細かなことも相談して学がっているようになっている。 ■それをきっかけに細やかに面談も行うことができています。 | A | A | A | 不測の事態が起こったときに、担任、副担任、保健室、SCなど即座に連携して生徒対応することができた。面談を機軸の後の期間などを設けることにより、さらに効果的に行きたい。修学旅行の準備では、生徒自身で企画やルールを考え、発信していくのかなり主体的な動きができた。 | A | ・中弛みしがちな2年生だが、先生方が連携して対応しているのが良かった。 ・生徒が疎外感、孤独感を抱かないように確実なフォローができるよう、今まで以上にコミュニケーションを活性化させるとともに、教職員間の連携に力を入れて取り組んでいただきたい。 ・学校の中核として、育ててあることがよく分かった。 ・不測の事態は常に起こるものとして対応をお願いしたい。 |
| | | | 学校の中核としての役割を果たせるように生徒の支援を行う。 | 学校の中核としての役割を果たせるように生徒の支援を行う。 | | | | A | | |
| | | | 自己理解のための面談などを適切に行い、自他ともに尊重する態度とソーシャルスキルを身につけさせる。 | 自己理解のための面談などを適切に行い、自他ともに尊重する態度とソーシャルスキルを身につけさせる。 | | | | A | | |
| | | 将来を見据え、目標を具体的に設定し、実現のために挑戦する生徒の育成 | 進路や外部と連携した活動を多く提供し、集会などを活用して様々なことに挑戦する気概とくじけない心を涵養する。 | ポートフォリオによる振り返り ○自己分析について ■よき自己を分析し、行事の目的などを理解した反省や感想が述べられている。 保護者アンケート ○学校生活について ■進路、勉強、部活との両面で悩んでいるという回答が一定数見られ、学年集会やHR、個人面談等で指導に当たった。 | A | B | B | 生徒が活動報告をする場を多く設け、生徒がお互いにチャレンジ精神を刺激し、成長を確認し合う場になった。発展させ、考えを述べることを促す力を養いたい。探究活動は簡略化されたが効果的に行うためにFWの時間は再考の余地あり。特別講座などの取り組みで、生徒の高い意欲を感じられたので、今後も生徒の学習の機会を確保したい。 | | |
| | 学年の連携を綿密に行い探究活動の充実を図り、進路実現に向けた研究成果の活用を促す。 | | 学年の連携を綿密に行い探究活動の充実を図り、進路実現に向けた研究成果の活用を促す。 | | B | | | | | |
| | 人生を豊かにするための基礎基本を中心とした確かな学力を身につけさせ、進路意識の高揚を目指す。 | | 人生を豊かにするための基礎基本を中心とした確かな学力を身につけさせ、進路意識の高揚を目指す。 | | B | | | | | |
| 第3学年 | 「春日五常」の精神を実践し、何事にも全力で取り組み、活動の意義を自ら見出す生徒の育成 | 共生する他者との良好な関係を構築できる素地を育成するため、校内外のルール・マナーを遵守させる。 | 学校生活アンケートいじめアンケート等 ○一部の生徒による誹謗中傷等が起きていることがなかった。 ■早期対応を心掛け、適切に指導を行い、関係生徒が早期に快く学校生活が送れるようにした。 | B | B | A | 3年の2学期終業まで大きな生徒指導案件がなかったこともあり、生徒のSNSの使い方や他者とのコミュニケーションの取り方について指導する機会が少なかった。受験によるストレスのほけ口になっている部分もあり、保護者に対して家庭での言動などに注意を払ってもらうよう促していく必要がある。 | A | ・指導案件も内容によっては成長の糧となる様にフォローをお願いしたい。 ・春日高校の顔として、また、素敵な大人として羽ばたかせようとする取組がよく分かった。 ・誹謗中傷があったことは残念だが、迅速に対応したのは良かったと思う。 ・生徒が疎外感、孤独感を抱かないように確実なフォローができるよう、今まで以上にコミュニケーションを活性化させるとともに、教職員間の連携に力を入れて取り組んでいただきたい。 | |
| | | 社会の多様性を理解させ、公共心や思いやりの心を実践できる生徒を育てる。 | 社会の多様性を理解させ、公共心や思いやりの心を実践できる生徒を育てる。 | | | | B | | | |
| | | 学校行事において、学校全体をリードしつつ、下級生を導くリーダーの素養を育む。 | 学校行事において、学校全体をリードしつつ、下級生を導くリーダーの素養を育む。 | | | | A | | | |
| | 進路実現のため、自ら行動し道を切り拓く人材の育成 | 将来の夢を思い描き、そこへの道筋を計画できるように情報収集のスキルを身につけさせる。 | ポートフォリオによる振り返り ○「今だからこそ語れる後輩へのメッセージ」を本人が後輩(2年生)に向けて書くことで自分の自己の振り返り。 ■自己の弱さを認識したり、無計画だった自分を省みることができ、次の行動へのモチベーションとなった。 | A | A | A | 自分の弱みを認識し、それをさらけ出すことで自己分析が進んだように思う。また大運動会でのリーダー経験は大きく、そこに関わった生徒の精神的な成長を強く感じた。受験という大きなストレスを乗り越えることで、更なる心の成長を期待したい。 | | | |
| 計画を実行に移し、簡単に諦めない忍耐力をつけさせる。 | 計画を実行に移し、簡単に諦めない忍耐力をつけさせる。 | | A | | | | | | | |
| 学校行事において、学校全体をリードしつつ、下級生を導くリーダーの素養を育む中で、社会で求められるリーダー像を認識させる。 | 学校行事において、学校全体をリードしつつ、下級生を導くリーダーの素養を育む中で、社会で求められるリーダー像を認識させる。 | | A | | | | | | | |

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・従来の業務を見直し、効率化やシステム化を取り入れることにより、これまで以上に積極的に職員の心身の健康作りに努めていく。
- ・自転車事故が近隣で頻発しており、地域と協力して安全対策を行っていく。
- ・授業におけるICTの活用が学力向上にどれ程関係しているかの検証が必要であり、その方法等についての研究を行っていく。
- ・学校HPIは、内容の迅速な更新や見る側に立った改善を常に行っていく。

| 学校関係者評価 | |
|--------------------------------|------------|
| 評価(総合) | 自己評価は |
| A | A: 適切である |
| | B: 概ね適切である |
| | C: やや適切でない |
| | D: 不適切である |
| 評価項目以外のものに関する意見 | |
| 生徒のために、丁寧に熱心に取り組んであることがよく分かった。 | |